

## 新・学習指導要領時代の「評価」の在り方

- 先生に見えた学習活動の姿を学習評価にしてきてしまった課題を踏まえて -

今回の新学習指導要領や「学びの連続性」や「知識・技能」を元にした主体的・対話的で深い学びで得られる教育効果への期待に伴って『学力保障』と『確かな学び』を強調しています。また、埼玉県教育課程編成要領も、埼玉県の喫緊の課題として「学力保障」を掲げています。「学びの連続性」「学力保障」の観点から特別支援学校は変化を求められています。

…さて、今回は新・学習指導要領時代の「評価」について、副題の「特別支援学校で多用されてきた先生に見えた学習活動の姿を学習評価にしてきてしまったという課題」を話題の切り口として説明をします。

新しい学習指導要領となり、小学部から随時完全実施となっていきます(令和元年3月現在)。で、なんで副題の「活動の姿をそのまま評価にすること」がダメなのか。根拠は最近の資料にも見ることができます。例えば『児童生徒の学習評価の在り方(報告)』(文科省19.1.21)です。該当箇所(同P9)になんて書かれているかという、旧・学習指導要領では「関心・意欲・態度」とされていたところの、この表記の意味合いを間違えて捉えてしまう先生がとても多かったと。なので新・学習指導要



領では「主体的に学びに取り組む態度」に変更したのだと。具体的に説明すると、「授業でつまらなそうにしていたので『関心・意欲・態度』は×」、「良い表情だった、楽しそうだった、嬉しそうで私も嬉しく共感できていた…等から『関心・意欲・態度』は◎」としてしまう先生が多数いたと。注意しなくてはいけないのは、この「関心・意欲・態度」は授業内での先生が感じ取った子どもの「関心・意欲・態度」を表す評価項目ではなかったということです。「関心・意欲・態度」とは、その子の学習内容そのものに向かう「関心・意欲・態度」を表しています。なので、新学習指導要領ではその子が「主体的(対話的で深く)に学習に取り組む態度」と改められました。

× 旧来的な評価: 笑顔が見られた。嬉しそうだった。安心して取り組めた。信頼関係が築けた。

⇒ 昔は関心・意欲・態度は◎としていた!?(もうダメですよ×)

○ 新しい評価: 内容を自分から探求していった。意味づけ・価値づけ・重み付けが成された。

⇒ 関心・意欲・態度(⇒主体的に学びに取り組む態度)が◎になる

もっと具体的な場面に引き寄せて「1+1=2」を子どもたちに教えるとしたら、笑顔とか関係性で逃げず、

○ 新しい評価: 1+1が、私の分とママの分をあわせた数だとながり、さらに拡がろうとしている。

⇒ 「主体的に学びに取り組む態度」の評価が◎となる。

新・学習指導要領では、学習活動(授業の中での目に見える活動の姿)と学習内容(授業を通して何を学ぶか、何ができるようになるか)の混同を嫌っています。「安心感をもってた」「笑顔だった」という先生の主観的な「活動がどう見えたか評価」だけで終わるような授業は20年前、30年前…のものとなり、次の10年は、子どもたちが確かな学力を本出して考え、選び取り、表現し、学びを意味づけ、価値づけ、重みづけて、さらに生涯を通して自分から探求していくことをねらって授業を構想していくこととなります。大切なのは「何を学んだか?何ができるようになったか?」です「確かな学びを!障害の重い子といわれる子にも確かな学力保障を!」という理念下の指導が新時代の先生には求められています。(学力は外面的な成長と内面的な成熟を指しますが、それは「キャリア教育」の記事をご参照なさってください)

さい。)「君には障害があるから楽しければ良い。嬉しそうだったから本単元はおしまいね。今日の活動のねらいは後付けですが友達と仲良く遊ぶことと、先生との関係づくりでしたー」ばかりをしたら、インクルーシブ時代にそれって立派な障害者差別なのだ。

特別支援教育は長らく「生活中心教育」の中で子どもたちの発達に寄り添い、多様な指導形態の中で、教科の指導内容を時に分けず、時に教科横断的に指導・支援してきました。また、重複障害のある児童・生徒への指導・支援は自立活動中心、時間割的には「オール自活」の中で進んできた部分もあります。一方で、その子が本来獲得できるだけの学力を保障してきたかという点、そこは弱点でもありました。本来的には物事をもっと数学的に、国語的に、理科的に、社会的に…それぞれの見方や考え方を働かせながらの、思考の元手となる知識や技能として獲得し、それを使って、人生で起こるさまざまな問題を切り開く判断や表現、その後の主体的な学びにつなげることがもっともっとできるのではないか?と。新特別支援の授業改善のポイントは、教科別の指導の見直しと「学力保障」にあるといっても過言ではありません。

参考資料:児童生徒の学習評価の在り方について(報告) 文部科学省 [http://bit.do/hyouka\\_190121](http://bit.do/hyouka_190121)